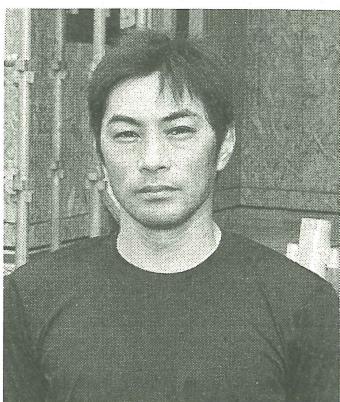


ひと

「きれいにつくる技術が大事」

ツーバイフォーの施工に携わる
ポラスハウジング協同組合の 井戸沼 豊さん



「いつ誰が来てもいいよ
が大事」と説明する。
うに現場をきれいにしてお
く」と4S（整理、整頓、
清掃、清潔）を徹底。「仕
上がりや見栄えを気にしな
くてよければ、誰が作業を
してもよいということにな
る。現場をきれいにして、
きれいなものをつくる技術
が大事」

ツーバイフォー工法の世
界はパネル化が進んでいる
が、手組み（現場組み）を
担える技術力を持つ。19年
度の優秀フレーマー賞（日
本ツーバイフォー協会主
催）にも輝いている。

父親が自営で土木業を営
み、その影響で建設業に興味を
持っていた。高校卒業後、ボ
ランティア技術訓練校に01年4月
に入社（正社員）。一貫して
ツーバイフォー

に携わり、現在はポラスハ
ウジング協同組合埼玉施工
推進課2×4係の主任とし
て現場に立つ。フレーミン
グ（上棟作業）は月に2棟
程度行う。

先輩たちはこだわりを
持つて働いている人が多
かったという。「先輩たち
を見て育ったためか、誰か
に『こうやれ』と言われて
行うことはあるまい。実
際には自分の考えてやってみ
ないと、納得できない仕事
はどうしても出てくる」と笑
語る。手組みをはじめ、現
場感覚は豊富であり、木の
原理や特性を見極めて加工

を行う。

ツーバイフォーのフレー
ミングは、それだけで生計
が成り立つほど重要な仕事
だが、やはり体力勝負の世
界だ。「将来的に造作（仕
業）をもっと行っていった
い」と抱負を述べる。木造
軸組みの造作も経験してお
り「軸組みとツーバイ

フォーの“いいとこ取り”

ができる」と、造作関係で
も経験は豊富だ。

家庭には妻と小学生の子
供がいる。「この間、テス
トの結果を見たら、100
点を取っていた。よく取れ
たなと思ったが、やはり勉
強していたのかな」と笑
う。父親の顔をのぞかせ
た。福島県出身、38歳。
(古賀和之)